令和４年度　いのちの授業　事例集（中学校）【国語】

掲載数 14

	地区	学年	教科等	テーマ	内　容	参考事項（講師・教材等）
1	横須賀市	中１	国語	防災への備え、非常時に起こる集団心理の動きから、どうするべきかを考える。	教科書にある「防災に関するデータ」では「大地震に備えている対策」の調査結果が棒グラフで表されている。そのグラフを使い、各項目に対しどのくらいの人が対策をしていると答えたのか、さらに、そこから「防災意識を高めるためには何が課題なのか」を個々で考え、全体共有した。 また、「みんなでいるから大丈夫の怖さ」では実際に大学寮で火災実験を行った様子が書かれており、そこから、非常時に人はどのような行動をとるのか、集団でいるから安心ではない、むしろ命の危機に直面することもあると学んだ。 日頃なかなか防災について考える機会は持てないが、各家庭ごとの対策やどういう行動を取るべきか考えられていた。	１年　国語 「防災に関するデータ」、 「「みんなでいるから大丈夫」の怖さ」
2	横須賀市	中１	国語	字のないはがき	戦争中の暮らしについてグループで考えさせ、物語中の登場人物が戦時下でどのような暮らしをせざるを得なかったのかについてイメージを膨らませた。そして、物語の終末に痩せた幼い娘を見た父が流した涙の意味について考えさせた。生徒は、「字の書けないような子供ですら当時の生活の中では過酷な暮らしを強いられているということがわかり、改めて平和の中で生きることの大切さについて学んだ」という発言等をしており、現代を生きる生徒たちがどのように命を守り、生きていくかについて考えるきっかけとなった。	国語の教科書 『字のないはがき』
3	湘南三浦	中１	国語	「平和」をテーマにした意見文を書こう	《学習目標》戦争や平和に関する資料（本・新聞記事など）を読み、自分の考えを広げる。 《学習内容》 １　「大人になれなかった弟たちに……」（教科書・絵本）を読み、印象に残ったことや考えたことをワークシートに記入する。 ２　前時のワークシートをもとに、意見交流を行う。生徒の問い（疑問に思ったこと）をテーマに、問いについて考える。 ３　平和や戦争に関する資料を各自で選んで読み、考えや意見をまとめる。（夏休みの課題） ４　授業のワークシートと、夏休みの課題レポートを材料にして、意見文を書く。 ５　完成した意見文を交換して読み合い、感想を付箋に書いて相手に渡す。意見交流を行う。 それぞれが自分なりにテーマを設定し、平和や戦争、いのちについての考えをまとめることができた。また、作品を読み合い意見交流をすることで、様々な視点から戦争（現在・過去）について知ることができ、平和やいのちに対する考えを深めることができた。	「大人になれなかった弟たちに……」教科書・絵本 各自の資料（本・新聞記事）

4	湘南三浦	中３	国語	安楽死（尊厳死）	森鴎外の名作「高瀬舟」を５時間に渡って授業で扱い、主人公二人のやりとりを通じて、生きることの意味、奥深さ、難しさなど、を読み深めた。主人公の心情を自分に置き換えて考える生徒も見受けられた。話し合いを通じて、生きることの意味を、中学生なりに考えることができた。	光村図書「国語３」
5	湘南三浦	中１	国語	大人になれなかった弟たちに	「大人になれなかった弟たちに」という、戦争をテーマにした小説について学習した。また、戦争や弟の死、いのちの尊さについて、「火垂るの墓」の観賞を通して考えを深めた。	
6	湘南三浦	中１	国語	命・戦争	戦争で弟を亡くした作者による随筆を扱った。戦争の恐ろしさ、家族が亡くなるということ、残された者の悲しみや心情を、実際の映像や写真と共に考え、今ある生活を大切にしなければならないことを再確認した。	米倉斉加年著「大人になれなかった弟たちに…」
7	湘南三浦	中３	国語	平和	井上ひさしさんの『握手』を通し、「戦争」や「どう生きるか」にちて考えた。	握手
8	湘南三浦	中３	国語	平和教育 「挨拶ー原爆の写真によせて」	筆者の体験から、現代の日本社会は本当に平和なのだろうかということを問題提起される。あたりまえの日常が突然悲劇的な非日常に変わることは、戦争に限らず、どのようなことが想像できるか考えた。また、常に悲劇的な非日常を想像し気をつけるのが良いかというと、それも現実的な生き方ではないし、不可能である。そこについても向き合わせた。コロナ禍やウクライナ問題を抱えるときに生きている生徒が、何を感じるのかを大切にした。	
9	県央	中１	国語	大人になれなかった弟たちに	松山善三の「碑」を扱う際に、米倉斉加年の「大人になれなかった弟たちに・・・」の学習もした。「碑」では軍事教育や原爆の脅威についての感想をもった生徒が多かったが、「大人になれなかった弟たちに・・・」では、戦争下におけるある家族の日常を知ることで、より命についての大切さ、戦争をおこしてはいけないという考えを深める生徒が多かった。	光村図書「国語１」『大人になれなかった弟たちに・・・』
10	県央	中３	国語	おくのほそ道	松尾芭蕉の「おくのほそ道」において、芭蕉の旅に対する覚悟、源義経の最後を学習する際に「命」について考えた。また、「無常観」を通し、自然のものは悠久であるが「命」は限りあるものだということを改めて考えた。	東京書籍「新しい国語３」『おくのほそ道』
11	中	中１	国語	いじめ	入学してまもない時期の一年生にいじめについて考える授業を行った。いじめという人権問題に対し、「いじめた人間」「いじめられた人間」という視点と同時に、「いじめを受けた人間の家族」という視点を踏まえた。本題材ではいじめを受けて不登校になり、「いもうと」が亡くなってしまう。その様子を見続けていた兄の視点から、なぜ「いもうと」はこうなってしまったのか、という行き場のない怒りや悲しみを感じ、他者を大切にする心や残された家族の思いなどを考えた。	「わたしのいもうと」（偕成社）

12	中	中１	国語	「大人になれなかった弟たちに・・・」	国語の教科書の題材である「大人になれなかった弟たちに・・・」は、米倉斉加年の実体験を綴った小説である。現在では当り前のようにごはんやお菓子が食べられる我々が、究極のひもじさで戦時中に生きていたら、そしてかわいい弟を自分がミルクを盗みのみしたせいで失ってしまったら。その辛さを自分事として捉え、単に「戦争はしてはいけない」と論ずるだけではないところまで思考を働かせられるよう、当時の日本の状況等を資料を用いて考えた。	光村図書 国語Ⅰ 米倉斉加年著 「大人になれなかった弟たちに・・・」
13	中	中２	国語	戦争と平和	国語の教科書の教材「字のない葉書」の授業の中で、親が子どもを思う気持ち、生命がおびやかされる理不尽さなどを考えさせた。合わせて東京大空襲について、歴史が風化してきている昨今、事実を伝える必要性を痛感し、DVDを視聴させた。 戦争の非人道的な現実を直視し、自分なりの「平和に対する思い」を考えさせるような授業展開に務めた。	国語１年「大人になれなかった弟たちに」 国語３年「挨拶ー原爆の写真に寄せて」
14	中	中３	国語	人権教育 「人権とはなんだろう　ーアニメ『めぐみ』から考えるー」	アニメ『めぐみ』を題材として扱い、「子どもの人権」について話し合い、「今、自分が生きていること」について考えさせた。「拉致」という言葉に馴染みがない生徒が多く、『めぐみ』の視聴前に事前知識として「拉致問題」について調べ、なぜ被害が起こってしまったかを考えさせた。視聴後は、「子どもの権利条約」をもとに生徒たち自身の人権が守られている状態にあるかを話し合い活動を通じて考えさせた。話し合いが進むにつれて、現状あたりまえに守られている「人権」によって「命」が守られていることに気づく様子が見られた。自他ともに人権を大切にしていくことで、「みんなの命」を守っていきたいと考え出した生徒もいた。	【教材】 『めぐみ』 政府インターネットテレビ